

# 株式会社日立物流

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業種：物流業</li> <li>● 事業概要：国内物流(3PL事業、一般貨物輸送、倉庫業等)、国際物流(3PL事業、航空運送代理店等)、その他(情報システム開発・設計、自動車整備事業、旅行代理店業務等)</li> <li>● 事業規模：連結売上高708,831百万円、従業員数24,139名(2019年3月末、従業員数には臨時従業員を除く)</li> </ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;          目標案：2030年に2018年比で30%削減          (再生可能エネルギーの利用、省エネ設備導入、電気設備の運用改善、エコカー等高効率車両の導入、エコドライブ推進 など)</p> <p>&lt;Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み&gt;          目標案：Scope3全体で2030年に2018年比で14.8%削減          (輸送委託先との連携による輸送システム化の強化、3PLプラットフォームホーム事業における顧客と協働した共同物流の拡大、その他物流の高度化)</p>

# 株式会社日立物流

項目	内容										
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : 207,711 [tCO<sub>2</sub>] (2018年度)</li> </ul>									
	<p style="text-align: center;">SCOPE別割合 (2018年度)</p> <table border="1"> <caption>SCOPE別割合 (2018年度)</caption> <thead> <tr> <th>SCOPE</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SCOPE1</td> <td>17.3%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE2</td> <td>9.5%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3</td> <td>73.2%</td> </tr> </tbody> </table>	SCOPE	割合	SCOPE1	17.3%	SCOPE2	9.5%	SCOPE3	73.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE2 : 113,643 [tCO<sub>2</sub>] (2018年度)</li> </ul>	
	SCOPE	割合									
SCOPE1	17.3%										
SCOPE2	9.5%										
SCOPE3	73.2%										
<p style="text-align: center;">SCOPE3カテゴリー別割合 (2018年度)</p> <table border="1"> <caption>SCOPE3カテゴリー別割合 (2018年度)</caption> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリー1</td> <td>67.3%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリー2</td> <td>11.7%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリー7</td> <td>9.3%</td> </tr> <tr> <td>その他カテゴリー</td> <td>11.7%</td> </tr> </tbody> </table>	カテゴリー	割合	カテゴリー1	67.3%	カテゴリー2	11.7%	カテゴリー7	9.3%	その他カテゴリー	11.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE3 : 878,389 [tCO<sub>2</sub>] (2018年度)</li> </ul>
カテゴリー	割合										
カテゴリー1	67.3%										
カテゴリー2	11.7%										
カテゴリー7	9.3%										
その他カテゴリー	11.7%										

# 株式会社日立物流

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<p>《リスク》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 低炭素またはカーボンニュートラルな輸送を目指す顧客の増加への対応の不足のため、顧客の評価が低下して、事業が縮小する。</li> <li>● 風水災、土砂災害、停電などに起因する物流センターの操業停止、輸送経路の遮断などにより、物流業務の停滞が多発する様になり、これに伴う機会損失、施設被害修復費の発生、商品損失の発生、防災設備投資コストの負担増等が発生する。</li> <li>● 平均気温の上昇による労働環境の悪化により、従業員の健康リスクや、人材確保の困難が発生し、事業継続に影響する。</li> </ul> <p>《機会》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同物流サービス等の低炭素で効率的な物流オペレーションを提供できる機会の増大が見込める。</li> <li>● 再生可能エネルギーの利用拡大により、エネルギーを安定的かつ長期的に低コストで確保できる可能性がある。</li> <li>● 当社グループは地域戦略をコア領域の一つと位置付けており、この中で多様化した事業・取組による気候変動対策を実施している。これにより、競争力の向上が期待できる。</li> </ul>

# 株式会社日立物流

項目	内容
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<p>事業の継続的な発展のためには、社会問題の事業を通じた解決が不可欠との認識の下に地球温暖化対策の中長期計画の策定を推進している。SBTの水準に適合した中長期目標を設定することで、今後、市場から評価される活動の展開ができる。</p>
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本社グリーンロジスティクス推進部にて、SBTの水準に適合した自社グループの中長期目標原案を検討中</li><li>● 社内関係者と課題を審議の上、役員会にて目標を最終決定</li></ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた行動計画の策定</li><li>● Scope3の目標、特に主要なカテゴリー 1 の目標達成に向けたデータ収集方法の確立、PDCA管理の実施等</li></ul>